

| B301 | | 西洋音楽史 | |
|--|--|----------|---------|
| 英名科目名 | History of Western Music I | | |
| 大学名 | 京都市立芸術大学 | | |
| 連絡先 | 教務学生課音楽教務担当 TEL:075-334-2222 FAX:075-334-2345 | | |
| 担当教員 | 池上 健一郎(音楽学部 准教授) | | |
| 開講期間 | 2021年04月15日(木)～2021年07月29日(木) 1講時 09時00分～10時30分(毎週木曜日) | | |
| 開講形態 | 前期・春学期 | 開講曜日・講時 | 木曜日 1講時 |
| 単位数 | 2 | 履修年次 | 1年次以上 |
| 会場 | 科目開設校キャンパス | | |
| 授業定員 | 100 | | |
| 単位互換生定員 | | 京カレッジ生定員 | 5 |
| 試験・評価方法 | 毎回の小課題(50%)と学期末レポート(50%)により評価する。 | | |
| 超過時の選考方法 | 書類選考 | | |
| 受講料 | 入学金:28,200円 授業料:科28,800円 聴28,800円 | | |
| 別途負担費用 | | | |
| その他特記事項 | Google Classroomを活用したオンライン授業。オンデマンド配信での授業動画を視聴し、その内容に関する小課題に期日までに答えるというサイクルで進めていきます。スマホでも不都合はないよう配慮していますが、PCかタブレットを準備しておいた方が学習はしやすいでしょう。 | | |
| パッケージ科目 | | | |
| 低回生受講推奨科目 | | | |
| 講義概要・到達目標 | | | |
| <p>【授業目標】</p> <p>1) 西洋音楽史の流れを、当時の社会状況や思想と関連づけて理解すること。</p> <p>2) 各時代の作曲様式の特徴を把握すること。</p> <p>【授業概要】</p> <p>西洋音楽史の展開や作曲様式の変遷について、当時の社会状況や思想の潮流と関連づけながら講義する。指定の教科書に沿って進めてゆく。「西洋音楽史」では、古代ギリシア時代から18世紀中頃までを扱う。</p> <p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書や参考文献をあらかじめ読んで上で授業に臨むこと。 授業で紹介できる作品には限りがあるので、NML(Naxos Music Library)を積極的に活用して自学に努めること。 | | | |
| 講義スケジュール | | | |
| <p>第1回 イン트로ダクション：なぜ音楽史を学ぶのか？ 何を、どのように学ぶのか？</p> <p>第2回 古代ギリシア、ローマの音楽 / 中世の単旋聖歌</p> <p>第3回 多声音楽の発展</p> <p>第4回 アルス・ノヴァの時代</p> <p>第5回 「ルネサンス」とは？ / フランドル楽派のポリフォニー音楽(1)</p> <p>第6回 フランドル楽派のポリフォニー音楽(2)</p> <p>第7回 宗教改革と反宗教改革</p> <p>第8回 16世紀イタリアの世俗歌曲 / ルネサンスからバロックへ</p> <p>第9回 17世紀イタリアの音楽：オペラの誕生と発展</p> <p>第10回 ルイ14世と17世紀フランスの宮廷音楽</p> <p>第11回 ルター派プロテスタントの音楽 / バロック時代の器楽</p> <p>第12回 後期バロック期の音楽 / 新しい様式の波</p> <p>第13回 18世紀中頃の諸潮流</p> <p>第14回 授業内試験</p> <p>第15回 まとめ・総評</p> | | | |
| 教科書 | 『音楽史を学ぶ - 古代ギリシアから現代まで』 (教育芸術社、久保田慶一) | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> 『西洋音楽史 - 「クラシック」の黄昏』(中央公論新社、岡田暁生) 『新西洋音楽史(上)(中)』(音楽之友社、 | | |